

卒業式

令和3年3月3日(水)、最後の卒業式が執り行われました。19名の卒業生は伝統ある救護服に身を包みました。新型コロナウイルス感染拡大防止の措置を行い実施しました。様々な人たちに支えられながら過ごした3年間の学校生活を胸に、笑顔で卒業していきました。



私たちはこの3年間、赤十字看護専門学校最後の学生として、赤十字の歴史と伝統を受け継いでいくという志を持ち、実習や勉学に励んできました。臨地実習では多くの患者さんと関わり一人一人の価値観に触れ、その人生から生きることを学びました。また、看護師の関わりが患者さんの回復に大きく影響していることを感じました。新型コロナウイルスの影響ある中でも、富山赤十字病院からの理解と協力があり無事に実習させていただき、感謝の気持ちでいっぱいです。私たちは進学する者、富山を離れる者などそれぞれの道を進んでいきます。赤十字の「苦しんでいる人を救う」という精神のもと、これから看護師として私たちができることを一人一人考え、看護を行っていきたいと思います。

卒業生代表 69回生岡田珠衣(答辞より抜粋)

閉校記念の碑除幕式



卒業式終了後に閉校記念の碑除幕式を行いました。記念碑には貞明皇后陛下(大正天皇の皇后)から賜った御歌「四方の国」が刻まれています。

